

ご挨拶

4月1日付けて、宮山敬子校長の後任を務めさせていただくことになりました林 孝一です。どうぞよろしくお願いいたします。

始業式、入学式、各学部での対面式が行われ、いよいよ令和5年度がスタートしました。4月1日付け、小学部70名、中学部50名、高等部56名、合計176名でのスタートです。

昨年度までは、新型コロナウイルス感染症対策により、様々な制限を受けてまいりましたが、感染症法上の分類が2類から5類に変更されることにより、感染症対策が見直されていきます。それに伴い学校における対策も変わってまいりますが、引き続き誰もが安心して生活できる安全な学校運営に取り組んでいきます。

学習指導要領解説には次のような記述があります。「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが成人して活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化をしており、予測が困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

こうした変化の一つとして、人工知能(AI)の飛躍的な変化を挙げることができる。～以下省略～」

最近注目されているチャットGPTなど、驚くほどの「人工知能の進化については、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかと予測も示されている」とも記載されています。まさにそうだと思います。

また、このような変化の激しい世の中でも誰もが平和に幸せに暮らしていけるにはどうしたら良いのか。SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標です。この共通目標のできることに取り組み、教育目標として、誰一人取り残さない教育(全ての児童生徒の主体的な学びを保障)を実現することを全教職員で共通了解し、取り組んでいきます。

未来の幸福な社会づくりの担い手の子どもたちが育つ学校づくりをしていると使命感を感じながら教育活動をしていこうと思うのですが、これまでにお伝えした予測が困難な時代を、自律し、様々な人と対話して、新たなものを創造していくような子が育つ環境をつくるのは、学校の教職員だけではできません。保護者や関係機関・地域の皆様がサポーターになり、教職員とみんなで対等につながり、みんなが当事者になってこそ実現できるのではないのでしょうか。本校では、昨年度からコミュニティ・スクール(学校運営協議会)がスタートしております。学校の目的を共通了解し、子供たちから学びながら、一緒に対話を通して学校・地域づくりに引き続き、ご協力をお願いいたします。

今年度の学校づくりのグランドデザインについては、別ページに掲載しておりますのでご覧いただくとありがたいです。これまで説明してきた予測困難な時代を生き抜くために必要なさまざまな取り組みを、昨年度まで、本校は力を入れて取り組んできました。

コロナ禍で始まった令和2年度は、児童生徒、教職員みんなで、「やってみよう!」をテーマに様々なことに挑戦してきました。令和3年度は、感染症対策をしつつ「学校の外に行こう!」というテーマで学校の外に出て、学びの種をたくさん見つけてきました。令和4年度は、より子どもを主語にした教育に取り組むため、「!?をたくさん見つけよう!」というテーマで「子どもの心に火をつける教師」「子どもから出発する教育」を追求してきました。令和5年度は、「!?を見つけてチャレンジ!」というテーマで、引き続き追求し、一歩進んでチャレンジして深めていけるようにしていきます。

最後に、子どもたちが感じている「不便さ」や「バリア」は、世界が目指す共生社会への道しるべとなる貴重なものです。日々の学習活動の様子などを積極的に情報発信し、本校の子どもたちの応援団を増やすとともに、子どもたち自身が情報の発信者となる社会貢献活動につなげていきたいと考えています。

令和5年4月 水戸特別支援学校長 林 孝一